

SDGsの達成に向けた 共創的研究開発プログラム

(シナリオ創出フェーズ・ソリューション創出フェーズ)

令和 7 年度公募について

令和 7 年 4 月



科学技術振興機構

今日お話しすること

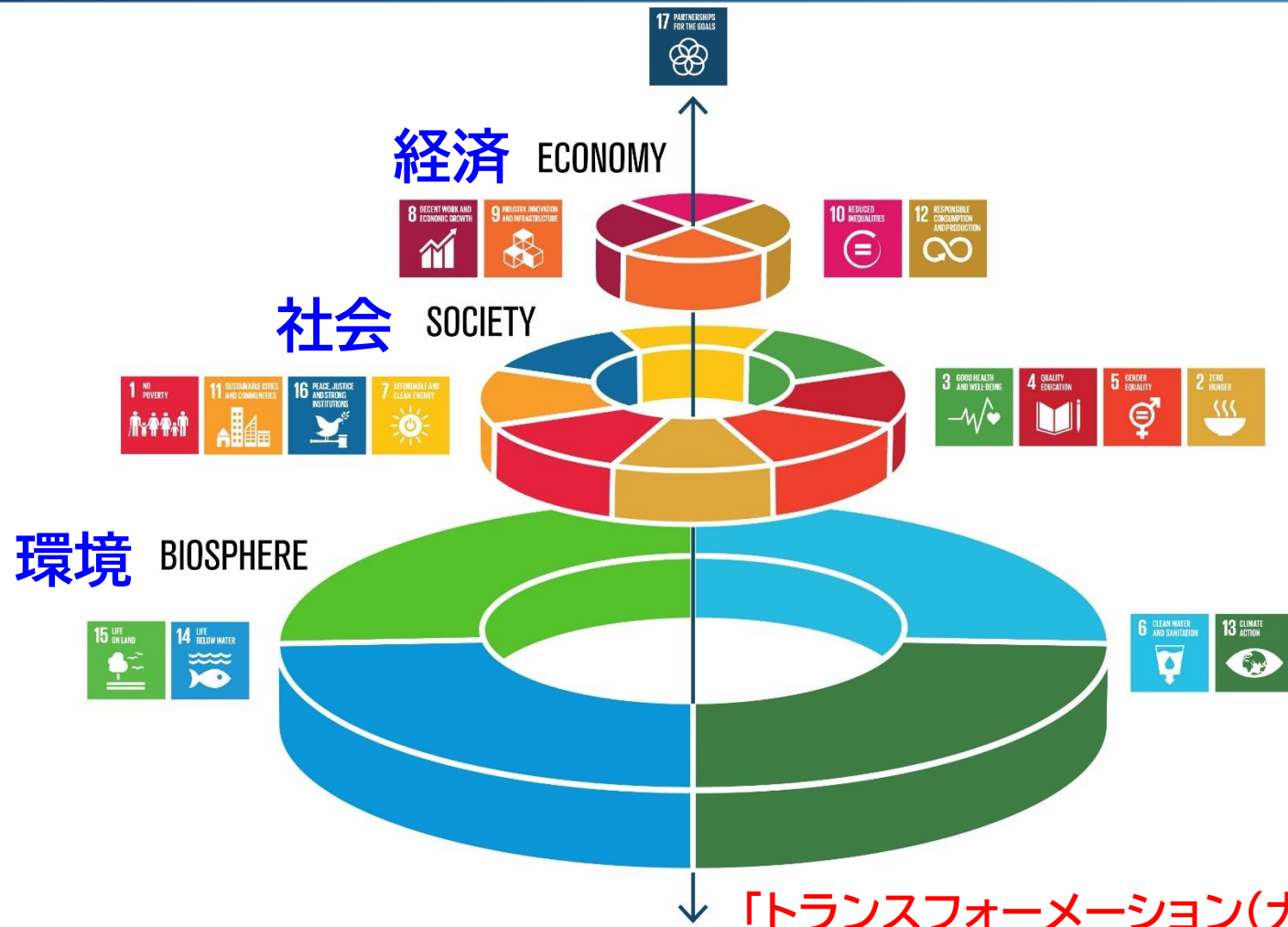
1. 世界と日本にとってのSDGsの再確認
2. 私たちがなすべきことは何か
3. 本プログラムが目指すもの

持続可能な開発目標(SDGs)

2016年～2030年までの間に達成すべき17の目標(ゴール)と
169の(具体的)ターゲット



SDGsのウェディング・ケーキ



source: Azote Images for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University

さらに厳しい社会課題に挑むために

- IPCC(Intergovernmental Panel on Climate Change: 気候変動に関する政府間パネル) 第6次評価報告書(AR6、23年3月)は、前回報告書(AR5)より精度高い予測として、さらに厳しい見通し提示。
- 国連SDGsサミット(23年9月)でのグテーレス事務総長スピーチ
「SDGsの15%しか達成できておらず、多くは逆行。飢餓の撲滅、再生可能エネルギーへの転換の加速化、デジタル化の恩恵の普及、子ども・若者への教育の質の向上、気候変動・汚染・生物多様性の損失という自然破壊の抑止、そしてジェンダー平等の確立が特に重要な課題。」

出典:「第6次評価報告書」IPCC(2023年3月)

<https://www.ipcc.ch/report/sixth-assessment-report-cycle/>

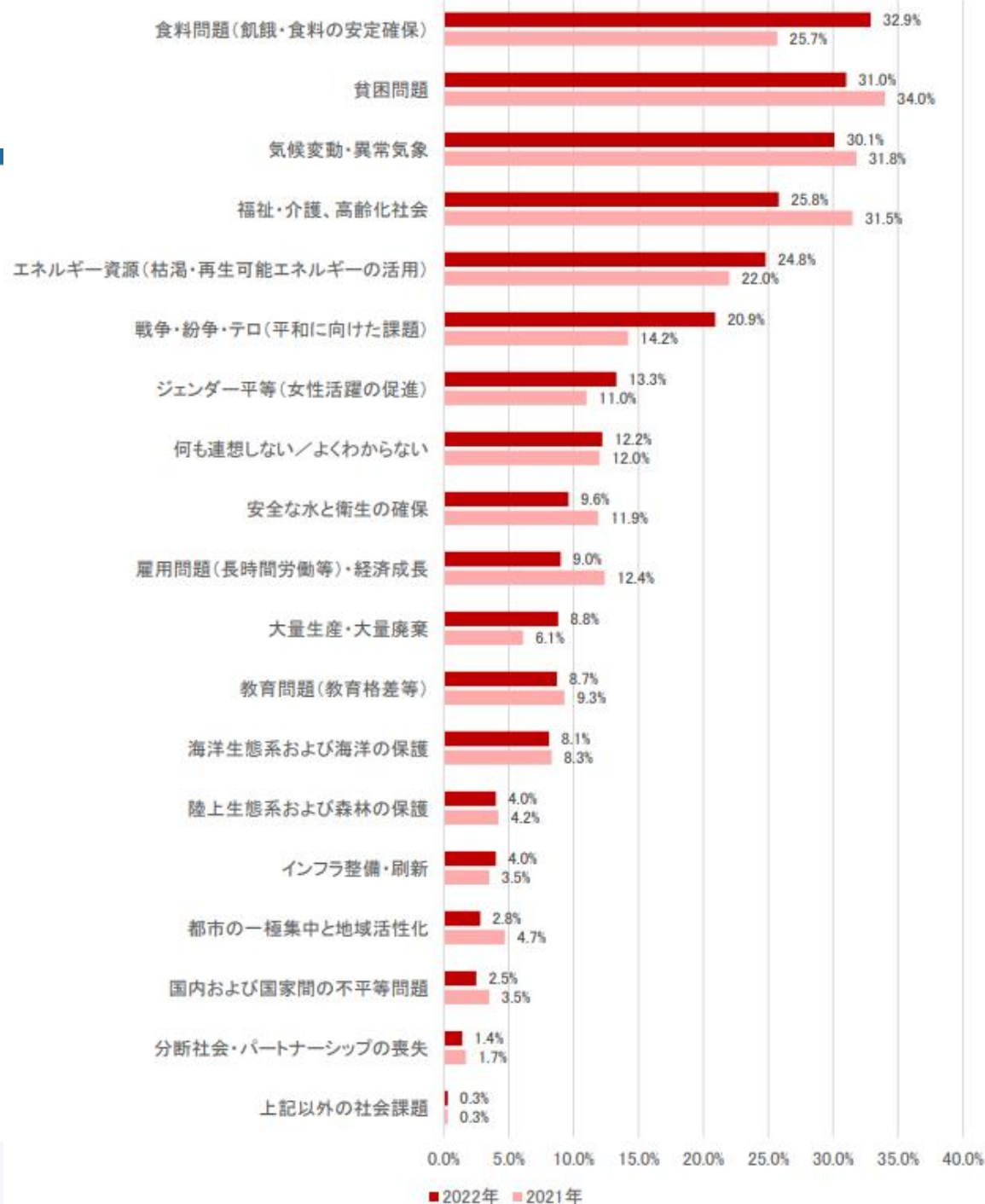
「Secretary-General's remarks to the High-Level Political Forum on Sustainable Development」United Nations(2023年9月18日)

<https://www.un.org/sg/en/content/sg/speeches/2023-09-18/secretary-generals-remarks-the-high-level-political-forum-sustainable-development>

“課題先進国日本”

「社会課題」と聞いて 重要度が高いと思うもの

出典:「SDGs・社会課題に関する意識調査」
損害保険ジャパン株式会社(2022年7月15日)
https://www.sompo-japan.co.jp/-/media/SJNK/files/news/2022/20220715_1.pdf?la=ja-JP



日本のSustainable Developmentの課題

・Sustainable Development Solutions Networkによると、2023年のSDGsの国別達成度評価で、日本は目標4(教育)と目標9(イノベーション)は5段階評価で最も高い「達成済み」の一方、目標5(ジェンダー)、目標7(エネルギー)、目標12(生産・消費)、目標13(気候変動)、目標14(海洋資源)、目標15(陸上資源)は5段階評価で最も低い「深刻な課題」に該当。対象166か国中の順位も21位と、過去最低。

出典:「Sustainable Development 2023」Sustainable Development Solutions Network(2023年6月)
<https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment.report/2023/sustainable-development-report-2023.pdf>

私たちがなすべきこと

共通言語となったSDGsの視点で課題をとらえなおし、長期的な視野に立って、政府、学界、産業界、市民社会、消費者、労働界、メディアなどが、知恵と行動力を結集し、グローバルな課題、ローカルな課題を解決していく。

- ・ STI(科学技術イノベーション)を有効な手立てとして活用する
- ・ 科学技術を人と社会の未来のために用いて、課題解決力とする
- ・ 革新的なデジタル技術AI、IoT、ビッグデータ、5G、ロボティクス、ドローン、ブロックチェーンなどの活用も

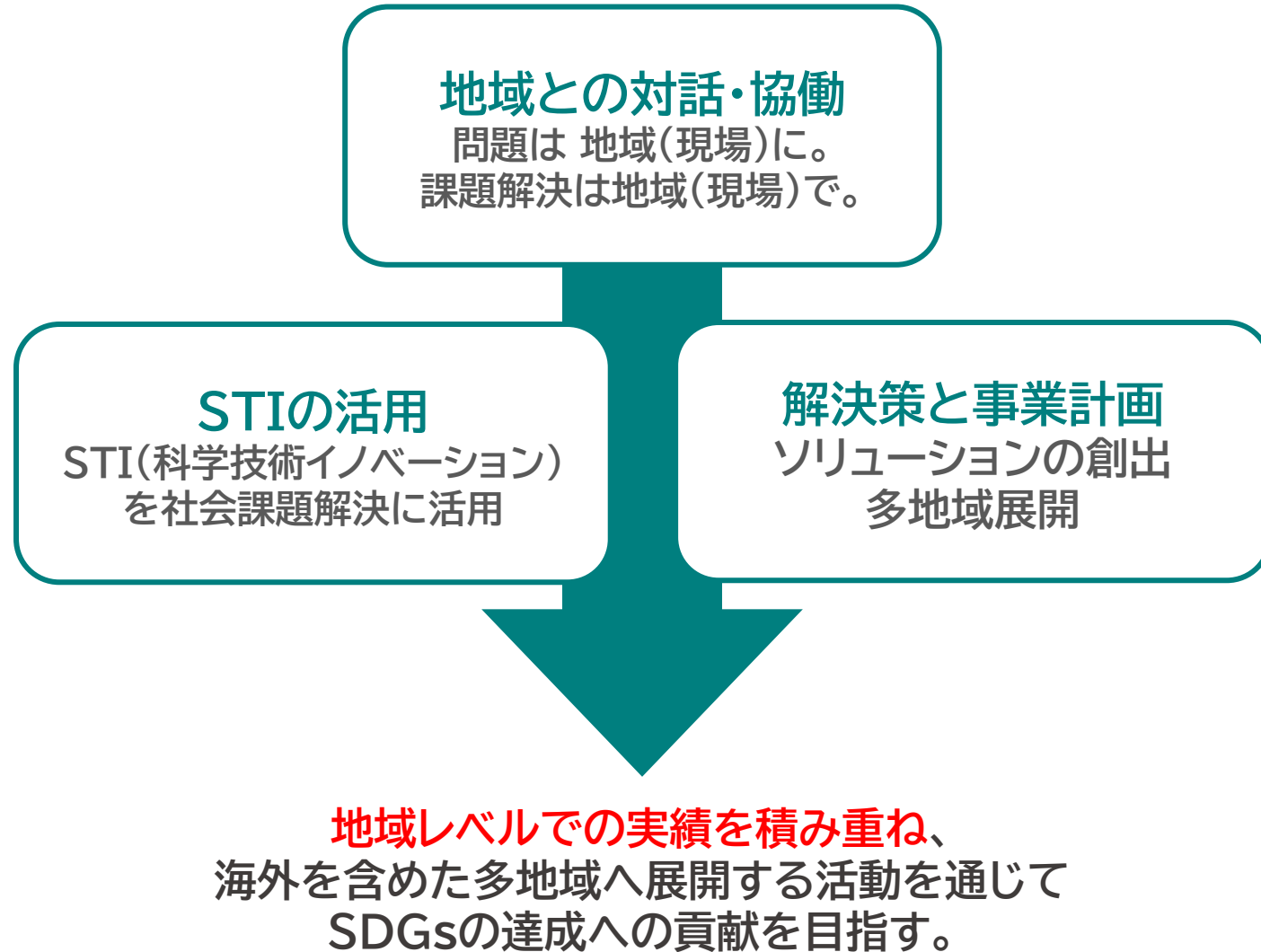
本プログラムが目指すもの

プログラムの目標

STIを活用して**特定の地域における社会課題を解決し、その成果を事業計画にまでまとめ上げ、国内外の多地域に展開可能なソリューションとして提示**すること。

- ・ 外部環境や科学的知見を起点とする、“Outside-in”
- ・ 目標から逆算してなすべき事を考える、“Backcasting”
- ・ 技術ドリブンではなく技術シーズを基盤とした、“ソリューション・ドリブン”
- ・ SDGs各目標間の相互関連やトレードオフ、シナジーに留意

プログラムの3つの柱



本プログラムが目指すもの

- ・ マルチステークホルダー、参加と共創によるプログラム推進
- ・ 研究者(研究代表者)と社会課題に取り組む当事者(協働実施者)と一緒に研究開発を推進

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

研究者 と 社会課題に取り組む当事者 による研究開発実施体制

・技術シーズ
・SDGs達成のアイデ

・技術シーズ
・SDGs達成の構想(シナリオ)

シナリオ創出フェーズ

SDGs達成の”構想”(シナリオ)を創出

- ・対話・協働
- ・社会課題を分析、ボトルネックを明確化
- ・地域での可能性試験

他公募、
ビジネス・事業化等

SDGs達成への貢献

- ・研究継続
- ・ステークホルダー共創
- ・広域ネットワーク構築

ソリューション創出フェーズ

SDGs達成の”解決策および事業計画”(ソリューション)を創出

- ・地域での実証試験による解決策の有効性確認
- ・事業計画の策定
- ・多地域展開の準備(適用可能条件、環境設定の提示など)

事業計画の実行 および 多地域への展開

SDGsの達成

募集最終

・研究開発期間
原則2年

・研究開発費(直接経費)
600万円程度/年

・研究開発期間
原則3年

・研究開発費(直接経費)
1,900万円程度/年

本プログラムが目指すもの

多様なステークホルダーを尊重し、協働実施者とともに社会システムをつくる

- ・本プログラムの特徴は、「自然科学や人文社会科学の知識や技術、さらにはステークホルダーとの対話・協働を通じて得られる『現場知・地域知』なども活用」して、「研究代表者と、地域で実際の課題解決にあたる協働実施者が、ペアで」、研究成果の社会実装や定着、さらに多地域展開を行うこと。
- ・研究開発成果を特定地域だけで試行する段階から、複数地域で定着しうる共通部分と可変部分を検証するパッケージ化・ユニット化の段階、それが普遍性を確立することで社会システム化の段階へと進むためには、当事者や、その支援者をはじめとする多様なステークホルダーを尊重し真摯に学び、得られた知見を体系化し、持続可能な事業・制度へと育てる社会技術が求められる。

本プログラムが目指すもの

・採択したプロジェクトのテーマは多岐に及びますが、目標1(貧困)、目標2(飢餓)、目標5(ジェンダー)、目標9(イノベーション)、目標10(不平等)、目標12(生産・消費)、目標13(気候変動)、目標16(平和)を特に重視するプロジェクトはまだ採択できておらず、日本の達成度評価と重ねると、目標5(ジェンダー)、目標12(生産・消費)、目標13(気候変動)については、積極的な提案を期待します。



本プログラムが目指すもの

- ・ プログラム総括・プログラムアドバイザーらによる機動的なハンズオン・マネジメントを行います。
- ・ 社会的インパクトがあり、意味のある変化を起こすためのさまざまなシナリオ創出、ソリューションを創出することを支援します。

プログラム総括

川北 秀人

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表者

本プログラムが目指すもの

プログラムアドバイザー

- 浅田 稔 （大阪国際工科専門職大学 副学長
／大阪大学先導的学際研究機構共生知能システム研究センター 特任教授）
- 岩崎 三枝子（元経団連1%クラブ 座長
／元トヨタ自動車株式会社共生社会推進室 室長）
- 岩田 孝仁 （静岡大学防災総合センター 特任教授）
- 奥山 千鶴子（特定非営利活動法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長）
- 河野 康子 （一般財団法人日本消費者協会 理事）
- 竹内 弓乃 （特定非営利活動法人 ADDS 共同代表）
- 田中 泰義 （毎日新聞社 論説委員）

※五十音順、所属・役職は2025年3月現在

本プログラムが目指すもの

(続き)

萩原 なつ子 (独立行政法人国立女性教育会館 理事長
／特定非営利活動法人日本NPOセンター 代表理事)

廣常 啓一 (株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役所長
／帝塚山学院大学 社会連携機構 特任教授
／大阪公立大学大学院 都市経営研究科 客員講師)

藤江 幸一 (千葉大学 理事)

松崎 光弘 (株式会社エーゼログループ 創発推進本部 本部長
／株式会社知識創発研究所 代表取締役)

山内 幸治 (特定非営利活動法人ETIC.
シニア・コーディネーター / Co-Founder)

善本 哲夫 (立命館大学 経営学部 教授)

※五十音順、所属・役職は2025年3月現在



SOLVE for SDGs

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

みなさまのご応募をお待ちしています

提案〆切: **2025年6月4日(水)正午**

問い合わせ先: boshusolve@jst.go.jp

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム 公募担当
(科学技術振興機構 社会技術研究開発センター)

SDGsの達成に向けた共創的 研究開発プログラム

(シナリオ創出フェーズ・ソリューション創出フェーズ)

令和7年度公募について(補足説明)

令和 7 年 4 月



科学技術振興機構

プログラムの概要（補足説明）

プログラムの目標（国内の特定地域の社会課題解決）

STI（科学技術イノベーション）を活用して
特定の地域における社会課題を解決し、
その成果を事業計画にまでまとめ上げ、
国内外の多地域に展開可能なソリューションとして提示すること。



STIを活用して、
特定の地域における社会課題を解決



事業計画にまでまとめ上げ



国内外の多地域に展開可能な
ソリューションとして提示

研究開発が終了した後のビジョン

- ・創出されたソリューションを成果の担い手が引き継ぎ、特定地域への定着を図る。
- ・海外を含め多地域へ展開する活動を通じて地域レベルでの実績を積み重ね、SDGsの達成につなげる。



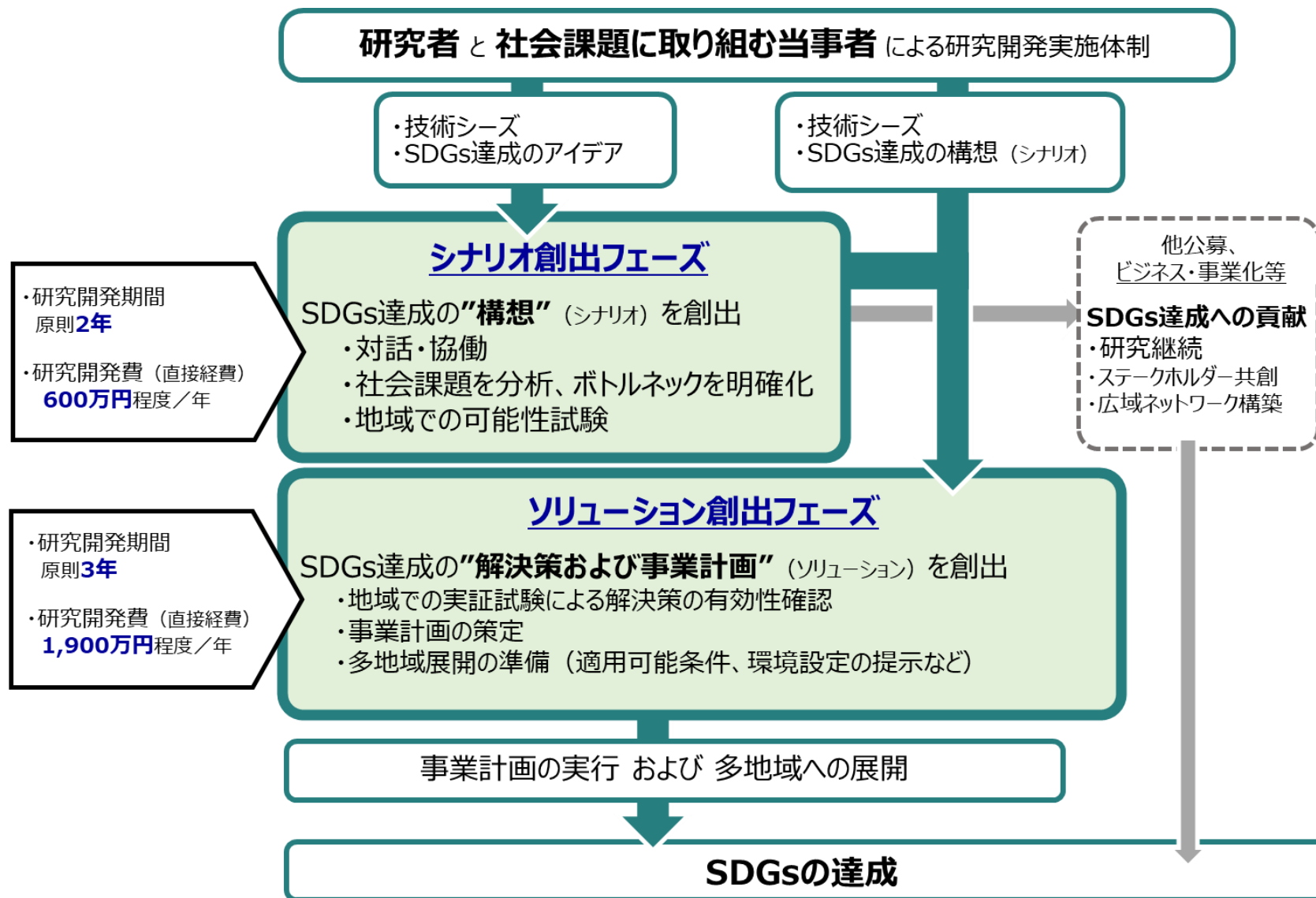
創出されたソリューションを成果の担い手が引き継ぎ、特定地域への定着を図る



海外を含め多地域へ展開する活動を通じて地域レベルでの実績を積み重ね、SDGsの達成につなげる

プログラムのしくみ

- ・ マルチステークホルダー共創によるプログラム推進
- ・ 研究者と社会課題に取り組む当事者が一緒に研究開発を実施



プログラムのしくみ（採択予定件数・研究期間・予算）

シナリオ創出フェーズ

＜研究開発費＞

（採択予定件数：2件程度）

- ・ 研究開発期間

原則 **2年**

- ・ 研究開発費（直接経費）

年間 **600万円**程度

ソリューション創出フェーズ

＜研究開発費＞

（採択予定件数：2件程度）

- ・ 研究開発期間

原則 **3年**

- ・ 研究開発費（直接経費）

年間 **1,900万円**程度

プログラムのしくみ

申請段階



技術シーズ
シナリオ

シナリオ創出フェーズ



技術シーズ
シナリオ

ソリューション創出フェーズ



提案対象となる要件等

■提案者要件

- ・ **研究代表者**（研究開発（自然科学、人文学、社会科学）の責任者）
- ・ **協働実施者**（社会課題に取り組む当事者の代表）
 - ※どちらか**一方は所属機関が大学等**
 - ※国内の実施機関（**民間企業、各種団体、NPO、大学、研究機関等**）



■技術シーズ要件

- ・ 既に可能性試験が出来る段階の**技術シーズ**がある



■支援対象

- ・ 支援対象は、**現実の社会課題を解決するための取り組み**自体
技術シーズの有効性を地域での実証（可能性）試験を通じて確認し、
社会課題解決のためのソリューションを創出する取り組み



■アウトプット

- ・ 目的は**地域における社会課題に対するソリューションの創出**

プロジェクトチーム

■ 研究代表者

他分野の研究者、現場を熟知した人、受益者、行政の関係者等々、多様な人々の協力を得て進める



■ 協働実施者

社会課題に直面し、研究者と協力して課題解決することを希望する団体・組織を実質的に代表して社会課題に実際に取り組む人（≠役職の代表者）

（どちらか一方は大学等に所属のこと）



研究実施者

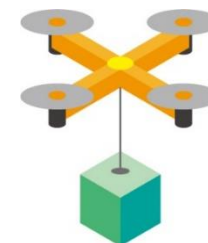


研究実施者

- ・ 研究代表者と協働実施者の二人が中心となってプロジェクトを推進。
- ・ 自然科学および人文学/社会科学の研究者、および創出されるソリューションの受け取り手となりうる協働実施者らによる体制を編成頂く。

技術シーズ

- 社会課題解決のために活用する科学技術の研究開発成果
- 自然科学に基づく技術を想定(その定義が多様であることを考慮)
- 少なくとも可能性試験ができる段階にある技術
※ 研究室レベルでのプロトタイプが開発済みであることが応募要件



実施中のプロジェクトの技術シーズ例

- ・ 防災のための被害予測・避難行動を促すアラートシステム
- ・ 低消費電力・遠距離通信GEO-WAVEを用いた通信拠点網
- ・ 福祉専門職向け災害時ケアプラン作成教育プログラム
- ・ 非接触非拘束型のジェスチャインタフェース技術
- ・ 自律移動ロボットおよびその自律航行技術



支援対象

支援対象は、現実の社会課題を解決するための取り組み自体



研究開発前の資源

(技術シーズ、社会課題解決のアイデア、等)

- ・社会システム等の導入普及展開
- ・地域合意形成の仕組みの構築
- ・人材育成システムの構築
- ・組織やコミュニティ間のネットワーク形成や協議会の展開 等々



社会課題の解決

- 技術シーズの研究開発そのもの、ソフトウェア、機器類の**商品化、企業化のみを追求する活動は支援対象外**
- 技術シーズの有効性を地域での実証（可能性）試験を通じて確認し、**社会課題の解決のための仕組み（パッケージ※）を創出する取り組みを支援**

※「パッケージ」とは、多地域で多様な担い手によって展開されることを念頭に、下記要素等を想定しております。

- ◆ニーズ/状況把握（アセスメント）の方法
- ◆最適な効果を生むと期待される手法
- ◆最適な効果を生むと期待される手法に用いる資源
- ◆担い手の育成
- ◆最適な手法を生むと期待される手法に要する費用と、その調達方法（対価請求、寄付、行政制度化 など）
- ◆効果の検証方法

令和元年度採択ソリューション創出フェーズプロジェクトの例

・防災と福祉の視点を合わせ持ち、組織の壁を越えて調整する能力を備えた福祉専門職（インクルージョン・マネージャー）を階層別に育成する教育プログラムと、それを継続的に発展・維持し、日本全国に横展開するための仕組み

・地下水の流れや汚染物質の発生・輸送プロセスの定量的な把握とその可視化により得られた科学的エビデンスを共有し、アクションリサーチを通じて多様なステークホルダーとともに合意形成に基づいた、汚染物質の効果的な負荷軽減対策を立案・実施する仕組み

・既存の診療支援システムに新生児科医の暗黙知とされる臨床技術を導入して子ども達に最善の医療と適切な福祉を提供することにより医療格差を解消し、家族や医療従事者等の当事者とともに新生児の命と健康を守る仕組み

選考にあたっての主な視点（公募要領一部抜粋、詳細は公募要領＜別紙＞p18～20 参照）

■フェーズ共通

- (1) 解決すべき**具体的社会課題**、**2030年までに目指すべき姿**が明確か？
- (3) **人権と関係しているSDGsのゴールとの関連**が明確になっているか？
- (4) 主要なステークホルダー参画の上で**KPIが設定・共有されPDCAが考慮**されているか？
- (5) **複数の地域**において**継続的に実践**される計画（ソリューション）、
またはその**基盤となる基本的なプロセス（シナリオ）**が提案されているか？
- (6) 研究開発のフィールドとなる**複数の地域**が明確であり、P Jに関する**主要なステークホルダーの現状**が的確に分析され、
それらとの**協働によって共創される価値**が示されているか？
- (8) **社会実装の主な担い手**となり、**リードできる人材**が協働実施者として配置されているか？
- (10) P J終了後も**成果の担い手**自らが**社会課題への取り組みを継続する体制**になっているか？

■シナリオ創出フェーズ

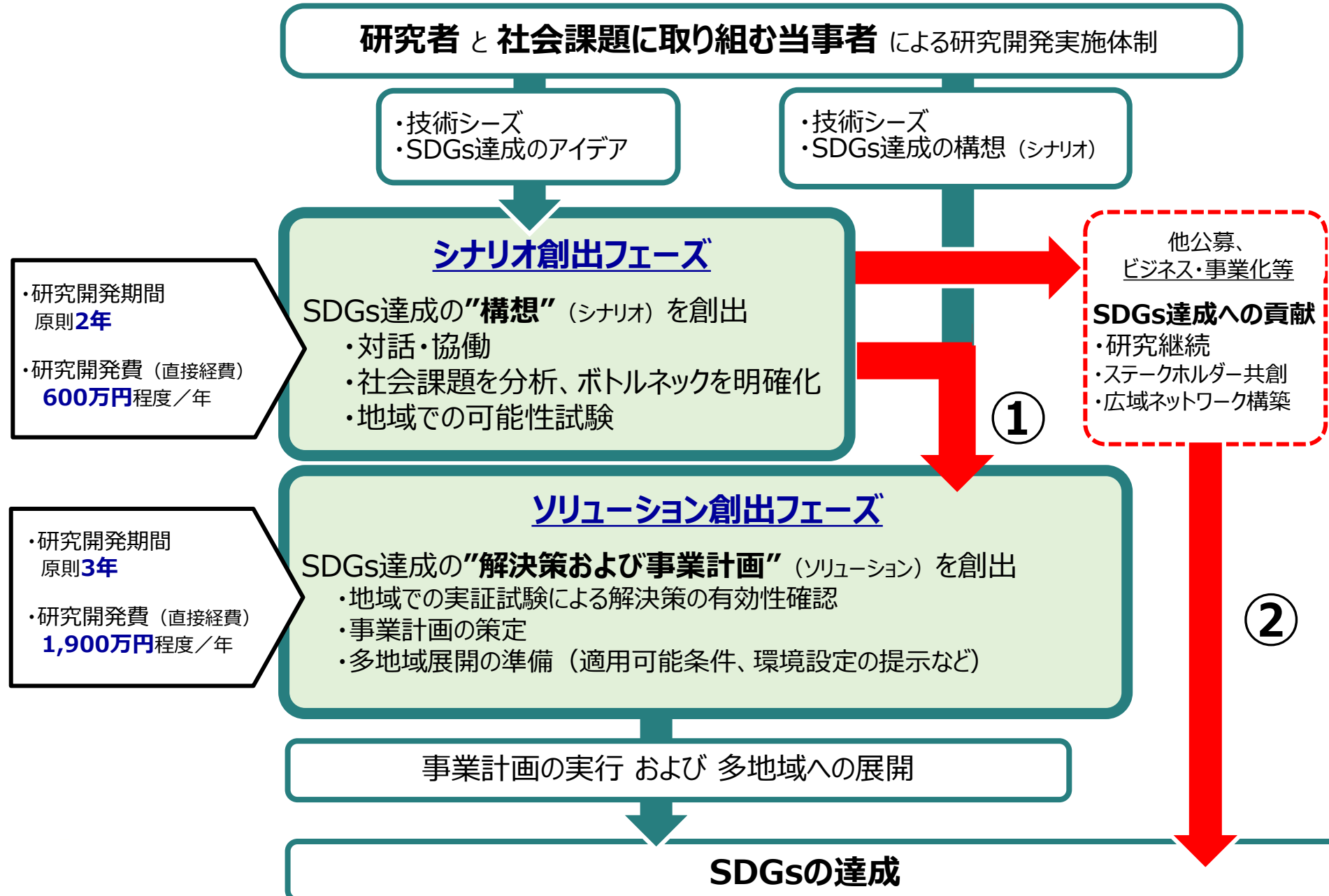
- (3) 対話・協働を行う**ステークホルダーによるネットワークの構築と活動状況**が示されているか？
- (4) 技術シーズ、解決のための**アプローチや手法のアイデア**について具体的かつ有効か？
- (6) **多地域展開するコンテンツ**、**担い手候補の具体像**、**展開のための手法**などを含む、**具体的なマイルストーンを考慮した研究開発計画**が立案されており、**事業構想作成の見通し**が示されているか？

■ソリューション創出フェーズ

- (1) 実現すべき**ビジョン**と、**実現によって創造される価値**、**その為のシナリオ**、および**すでに展開可能なコンテンツ**、
展開先の具体的な候補地、**展開の方法**が明確か？ **社会課題解決の道筋**が論理的かつ現実的か？
- (4) 「**コーディネーター**」「**解決策を定着させる担い手**」「**多地域展開への担い手**」が明確か？
- (5) 全国的な仕組みにするための構想を含む、**事業計画の作成の見通し**が明確に示されているか？
- (6) メリットを受ける人々が特定され、その効果が明確であるか？ **多地域等への展開可能性**が具体的か？

**【公募要領＜別紙＞第3章 提案公募Q&A（本プログラム固有事項）
および RISTEXの提案募集Webサイト表下部のQ & Aもご参照ください】**

シナリオ創出フェーズ終了後の展開



シナリオ創出フェーズ終了後の展開

①ソリューション創出フェーズへの応募・採択

- ・ 終了年度以降にソリューション創出フェーズへ応募
- ・ シナリオ創出フェーズを経ない他の応募案件と同等の条件で審査を受けて採択されれば、継続して研究が実施可能

②他公募・ビジネス・事業化 等

- ・ 「シナリオ創出フェーズで構築したSDGs達成のための構想」実現に向けた、他の公的あるいは民間資金による研究開発活動の継続
- ・ 新たなネットワークの構築により獲得したビジネスパートナー等との協働・共創による新規ビジネス立ち上げ、事業化 など

選考スケジュール

提案書受付期限（※）	6月4日（水） 正午 ※府省共通研究開発管理システム（e-Rad）での受付期限日時
書類選考期間	6～7月（予定）
書類選考の結果通知	面接選考会の1週間前までに連絡（予定）
面接選考会	シナリオ創出フェーズ： 8月4日（月） ソリューション創出フェーズ： 7月30日（水）
総括面談（採択条件の説明）	8月19日（火）・20日（水）
選考結果の通知・発表	9月下旬（予定）
研究開発の開始	10月上旬（予定）

最新の情報は提案募集ウェブサイトをご参照ください。

https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/proposal_2025.html



SOLVE for SDGs

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

みなさまのご応募をお待ちしています

提案〆切：2025年6月4日（水）正午

問い合わせ先：boshusolve@jst.go.jp

**SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム
ソリューション創出フェーズ／シナリオ創出フェーズ 公募担当
（科学技術振興機構 社会技術研究開発センター）**